

1 仕様書内容の確認の徹底

- 入札参加に当たり、休憩・仮眠時間帯の警備体制の取扱いについて十分確認する
- 不明確な点については、必ず発注者に対し事前照会を行い、書面等により確認する

2 適正な見積りの実施

- 労働関係法令等を遵守した警備ポスト数、勤務時間、休憩時間の取扱い等を踏まえ、必要人員を適切に積算する
 - ※ 別添1-2のP6の「 休憩等の時間帯に係る警備体制の類型ごとの概念図」のうち、「<即応態勢型>」については、労働基準法に違反する可能性が極めて高い類型であることに留意する
- 仕様書に基づかない過小な人員配置を前提とした積算を行わない

3 契約内容の明確化

- 契約締結時において、警備体制及び業務内容について当事者間で認識の一致を図る
- 必要に応じ、警備員シフト表等を提出するなどして、体制や対応方法を文書により明確にする

4 業務履行の適正確保

- 仕様書に基づく警備体制が確実に履行されるよう、内部管理体制の充実を図る
- 警備員の勤務状況の記録及び確認を適切に実施する

以上